

DIGITABLE 第 50 回勉強会レポート

2011 年 11 月 12 日 於：森下文化センター 第一会議室



DIGITABLE 五周年展の会場でゲストと共に

Digital 基礎講座「マイカレンダーの制作法」：高木大輔講師
参加者全員による“ライトニングトーク”（持ち時間 3 分）
Photoshop 研究講座「白黒写真を楽しむ」：平野正志 講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

Digital 基礎講座 2011 第 7 回

マイカレンダーの制作法：高木大輔講師 (APA 会員)

第 50 回の記念講座として DIGITABLE 特製カレンダーテンプレートを利用してマイカレンダーの制作法を解説する。

＊特製カレンダーテンプレート

カレンダーテンプレートは 4 種類を用意した。

12 か月分を表示した 1 枚物の年表の縦型と横型。こちらは A3 用としてあるが、PDF を開く時の解像度は自由に設定出来るので、もっと大きなサイズでも使用可能だ。テンプレートの PDF は開く時（画像として描画する＝ラスターサイズ）任意の大きさに設定して描画出来るというたいへん便利なものだ。

＊写真の張込

写真画像を開き、ベース画像にペースト。これでベース画像の表示している中央部に写真画像が配置された。ベース画像のレイヤー上に新規のレイヤーが出来たのが分かる。

＊写真の移動・縮小拡大

中央に配置された写真を適正な位置に移動する。画像の縮小拡大が必要な場合は、「変形」から「縮小・拡大」を使用する。この場合 Shift キーを押しながら作業すると画像のタテヨコ比を損なうことが無い。

尚、複数配置する場合は、あらかじめ解像度や画像サイズで、必要な大きさに揃えておくことが望ましい。

写真の位置が決まったら、レイヤーパレットのサブウィンドを開き、レイヤーになった画像を統合する。今まで透明上に浮かんでいた定着され、ベースも白になって完成だ。この画像を名前を付けて保存し、A3 でプリントすれば出来上がりだ。慣れてきたらイラストや他の画像を加えたり、文字部分の色替えをしたりして、更にオリジナル性を高めることが出来る。講座ではそのさわりもお話したい。

(禁：無断転載) DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME)

<http://www.digitable.info>



第 50 回の記念講座に臨む高木講師



写真画像を開き、ベース画像にペースト。ベース画像のレイヤーの上に新規のレイヤーが出来た



出来上がったミニカレンダー！

参加者全員による“ライトニングトーク”

(今回は多数参加の為、各自持ち時間3分)

KMさんはスイングパノラマの話。KWさんは作品をスライドショーで。TMさんは出版社のスタジオでのお話。NYさん写真の選択の話。KKさんは携帯の話。IFさんはホワイトバランスとフィルター。AYさんは未開封のクリスピー変色するとの報告。KSさんは西大井のタクシーの話。HKさんはリサイクルshop開店についての話。YAさんは大連のロシア人街とお子さんの写真。STさんはPhotoshopElementsでの彩度設定の話。SYさんは人に写真を見せる感動について。H講師はAdobeのバージョンUPとACDSeeの話。T講師はAPAで開かれている技術セミナーの紹介。
… という記念勉強会に相応しい賑やかな内容であった。

Photoshop 研究講座 平野正志 講師 「白黒写真を楽しむ」

*フォトショップでカラー写真から白黒へ新規調整レイヤーを作り、白黒にしたいので、その中から「白黒」調整を選択。写真画像の調整は必ずレイヤーで行うが、これは個々の調整を別のレイヤーで保存することで、調整のやり直しなどを容易にするためだ。

調整レイヤー「白黒」では画像の持つ色の要素をそれぞれ明るく暗くなど、調整することが可能だ。

画面周辺を「焼こみ」で作業してもかまわない。

*スマートシャープ

最後にプリントのために、スマートシャープで、量は150程度、半径は0.8とした。シャープは量、半径など適宜変更するが、画像のプリントサイズなどによって調整。大きくプリントする画像には、より強めが適切と思う。

(別の方法として、ハイパスでシャープ加える方法も。背景レイヤーをコピーして、レイヤーの重ねる条件をオーバーレイ・ソフトライト・ハードライトなどに変更する)

*白黒印刷とダブルトーン印刷

白黒プリントでもカラーインクを使用している。ダブルトーン印刷では、通常の写真ショップによるカラー管理では無く、プリンターによるカラー管理で白黒印刷を行う。

もうひとつ背景をコピーして、2回目の印刷用として利用します。透明度を落として、20%～40%程度で使用する。第一印刷の純黒調などとは違う「セピア調」または「温黒調」などで印刷。薄く色が重なる状態で印刷される。

(禁：無断転載) DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>



今月の1枚：発表に向けて緊張の場面？
左から高木講師、永富会員、平野講師



新規調整レイヤーを作りその中から「白黒」調整を選択。調整は必ずレイヤーで行うこと



ダブルトーン印刷では、薄く色が重なる状態で印刷されるが、用紙がずれないようにプリンターにセットすること